【施策１】

# 地域とともに健やかに暮らす

生まれてから命を閉じるまでのサポートの充実

（～人生100年時代を自分らしく生きるために～）

## ＫＰＩ

| ＫＰＩ<br>重要業績評価目標 | 目標値<br>(2020～2026累計) | 2020<br>年度 | 2021<br>年度 | 2022<br>年度 | 2023<br>年度 | 2024<br>年度 | 2025<br>年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 出生者数 | 160人 | 25人 | 27人 | 16人 | 16人 | 15人 | 12人 |
| 子育て講座開催回数 | 50回 | 1人 | 3回 | 6回 | 6回 | 5回 | 2回 |
| 移住者数 | 70人 | 3人 | 20人 | 19人 | 31人 | 29人 | 42人 |

## 妊娠前から出産、子育て期の包括的なサポート（総合計画No.103、111）

核家族化や地域とのつながりの希薄化などにより、子育てを取り巻く環境は大きく変化し、育児に不安や孤立を感じる家庭が増えている。また、支援を必要とする妊産婦や子ども、家庭が増加する一方で、気軽に相談できる場や支援につながる機会が限られていた。

妊娠前から出産、子育て期まで切れ目のない支援を行う産前・産後ケア事業や、町独自事業である妊婦さんサポート給付金、国事業である妊婦のための支援給付金をはじめとした経済的支援については、利用も増加している。また、子育て短期支援事業や子育て世帯訪問支援事業などの社会資源を活用した支援へのニーズも高まり、利用実績へとつながっている。さらに、子どもの居場所である子どもの生活・学習支援事業については、毎年一定数の利用があり、不登校をはじめとする生きづらさを抱えた子どもたちの拠りどころとなっている。令和７年４月開設のこども家庭センターのおいては、子どもをはじめ、それらを取りまく環境整備についても支援対象としている。

今後は、こども家庭センターの専門性を生かし、多様な地域資源を効果的に組み合わせ、妊娠前から子育て全般にわたる切れ目のない支援を実施する。安心して子どもを産み育て、子どもたちが健やかに成長できるよう、子育て支援施策のさらなる充実を図る。

## 自宅で子育てする家庭への支援や子育て講座を開催（総合計画 No.109、113）

自宅で就学前の育児をする家庭に対する給付事業はほぼ例年どおりの実績となっており、「自宅で子育て」が定着しつつある。経済的な支援はもとより、地域や家庭で子育てをする効果も期待される。

子育て支援センター利用人数については、前年度から微増となった。令和８年度からはちづ保育園の一室に場所を移転し、利用者の利便性を向上するとともに、引き続き上述の給付と併せた子育て支援の充実を図り、周知を強化していく。

他方で、智頭農林高等学校の学生寮が整備されたことにより、令和６年度からは県外２名の学生が通学していることは明るい話題と言える。

## 智頭NEXT実施や百人委員会への参加機会を創出し、郷土愛を育む（総合計画 No.80、98）

令和３年度から SDGｓをテーマに、ジビエキッチンカーの試食会や地域コーディネーターによる智頭町に関する学習を行って百人委員会中学生提案につなげるというパターンが形成されており、令和７年度も継続して実施した。令和７年度の中学生プロジェクトは「町内木材で特産品」制作で、町内産木材を使った「フォトカード」、「ランタン」、「紙袋」、「お守り」の４種類を作成した。

近年は、小学校６年生でインプット、中学校１年生で企画提案、中学校２年生で実施という流れへシフトしている。

## こども食堂、放課後児童クラブ、育カフェ等による家庭支援（総合計画 No.75、Ⅳ-5）

放課後児童クラブの運営について、県内でもトップレベルの安価な利用料でもあるため、登録者数や利用実績は非常に高く、支援員の確保に苦慮している状況である。令和８年度からは外部団体に支援員の派遣を委託するなど、支援員を確保しながら安定的な運営を目指していく。

こども食堂及び学習支援教室事業については、依然として高水準の実績となっている。

様々な家庭環境に伴い、子育てに関するニーズも多様化しており、きめ細かな対応を引き続き行っていく必要がある。

## 健康意識の向上（総合計画 No.41、42、45、Ⅱ-2）

本町では、全国的な傾向と同様、生活習慣病に罹患している人が多く、その後に重症化し、死亡原因になることもある。町民の健康づくりを考える上でも、また持続可能な社会保障制度を考える上でも、生活習慣病予防は重要である。

町民一人ひとりが望ましい生活習慣を実践すること、また実践しやすいような環境を整えること、生活習慣病を早期に発見し、対応することが重要であり、そのための施策として、健康診査、がん検診、健康教育、健康相談や訪問指導等、様々な角度から施策を行っている。

健診（検診）受診率については、コロナ禍で一度低下したものの、その後徐々に受診率が戻りつつある。今後も更なる向上を目指し、様々な事業に取り組んでいく。

また健康ポイント事業では、健康にあまり関心のない町民も、健診（検診）受診や健康づくり活動に取り組むモチベーションにつながっており、一定の成果が出ている。

## 健康体操やミニデイサービスなどによる介護予防の推進（総合計画 No.43）

介護保険計画に基づく介護予防事業（ミニデイ、脳の健康教室、百歳体操）は、各地区での取り組みが定着し、町民のフレイル予防に大きく貢献している。また理学療法士の派遣事業についてもニーズが多くあり、一定の効果が見られる。

これらの介護予防事業を効果的に活用し、更なるフレイル予防や社会とのつながりを創出することで、健康で自分らしい生活を送る一助とするため、引き続き事業を推進していく。

＜様式1附属＞

# 第7次総合計画進行管理検証シート

| 事業名 | 妊婦等保健相談事業の推進 | | | 所属 | 福祉課 | SDGｓ | 3,11 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業（細目）名 | 妊婦等保健相談事業 | | | | 事業番号 | 1104 | |
| 総合計画 基本理念 | 地域や家族のつながりをつくるまちづくり | | | | | | |
| 総合計画 視点 | 家族 | 事業番号 | 2 | | 連番 | 103 | |

R7年度（4月記入）

| Goal(目標) | 妊娠前から出産、子育て期まで、安心して相談できる体制、環境づくりを構築する。 |
|---|---|

Plan(事業概要・計画)

・妊産婦が智頭町で安心して、穏やかに過ごすことができるように、妊産婦支援、子育て支援策を充実させる。

・母子健康手帳の交付　　・家庭訪問、面談、電話相談の実施

・妊婦健診、産婦健診、歯科健診の費用助成　・特定不妊治療費の助成　・不育症検査治療費の助成

R7年度（3月末に実績見込を記入）

Do(実行)

| R7実績額 | | | | | 2,166,614円 |
|---|---|---|---|---|---|
| 活動実績を示す指標 | | 単位 | R6 | R7(計画) | R7(実績) | 対前年比(%) |
| ① | 妊産婦家庭訪問・面談・電話相談 | 件（延） | 3 | 5 | 7 | 233% |
| ② | | | | | | |
| ③ | | | | | | |

実施内容

・妊婦一般健康診査、産後健康診査の結果を把握し、必要な妊産婦へ訪問や相談を行う。

・各健診費用の助成、特定不妊治療費や不育症検査治療費の助成を実施。

・必要時、妊産婦家庭訪問、面談、電話相談を実施する。

R7年度（3月末に記入）

Check(確認)

| 評価項目 | 評価内容 | 100% | 75% | 50% | 25% | 0% |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | 社会情勢から見て、行政で実施すべきか | A | B | C | D | E |
| | 住民ニーズや総合計画に適応しているか | A | B | C | D | E |
| | 事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か | A | B | C | D | E |
| 有効性 | 期待した効果は得られているか | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の目標は達成できているか | A | B | C | D | E |
| | 総合計画の目的達成に貢献しているか | A | B | C | D | E |
| 効率性 | 効率性を考えたとき、実施方法は適切か | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の中で、統廃合や縮小できないか | A | B | C | D | E |
| | 事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か | A | B | C | D | E |

成果・課題

・妊婦の数も減少し、顔がより見える関係が築きやすくなり、家庭背景も把握しやすくなった。しかし、町内には利用できる社会資源等が限られるため不便性はある。また、住民と町との距離が近いが故の相談しにくさもある。

R7年度（3月末に記入）

| 評価 | B |
|---|---|

| 方針 | 拡大 | 現状維持 | 抑制 | 廃止 |
|---|---|---|---|---|

担当課長評価

| 評価 | B |
|---|---|

評価理由：育児の負担感をもつ妊産婦が増加しており、事業の継続が必要。

R7年度（3月末に記入）

Action(改善)

R7実施内容の改善及び見直しの上、R8の方針・計画

・関係機関と連携し、フォローが必要な妊産婦への家庭訪問、面談等を継続。

・妊婦期から妊婦との関係性を築き、状況把握を行いながら、切れ目のない支援を行っていく。

＜様式1附属＞

# 第7次総合計画進行管理検証シート

| 事業名 | こども家庭センター（子育て支援）の充実 | | | 所属 | 福祉課 | SDGｓ | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業（細目）名 | 子ども家庭福祉事業 | | | | 事業番号 | 2083 | |
| 総合計画 基本理念 | 地域や家族のつながりでつくるまちづくり | | | | | | |
| 総合計画 視点 | 家族 | 事業番号 | 10 | | 連番 | 111 | |

R7年度（4月記入）

| Goal(目標) | 子どもと子育てにやさしいまちづくりを実現する。 |
|---|---|

Plan(事業概要・計画)

○こども家庭センターの開設により、全ての妊産婦、子育て世帯、こどもに対し一体的に相談支援及び妊娠出産包括支援事業を行う。
・児童及び妊産婦の福祉や母子保健の相談等、支援を要するこども、妊産婦等へのサポートプラン作成、連絡調整等
・必要な家庭に子育て支援サービス等の情報提供を行い利用を案内する。
○子どもが安心して過ごせる居場所（すまいる）を設置し、運営する。

R7年度（３月末に実績を記入）

Do(実行)

| | R7実績額 | | | | 12,547,514円 |
|---|---|---|---|---|---|
| 活動実績を示す指標 | 単位 | R6 | R7(計画) | R7(実績) | 対前年比(%) |
| ① 子育て短期支援事業 | 件 | 9 | 10 | 15 | 167% |
| ② 産後ケア事業 | 回 | 10 | 10 | 13 | 130% |
| ③ 子どもの生活・学習支援事業 | 人 | 510 | 500 | 462 | 91% |

実施内容

・妊産婦、こどもやその家庭の課題・ニーズを、母子保健・児童福祉それぞれの専門性を活かし、アセスメントをし多様なサービスや地域資源等を組み合わせ、必要な支援内容を組み立てる。
・こどもの権利や育児方法などについて普及啓発を地域に向けて行い、子育てしやすい環境を整備する。
・妊婦のための支援給付金の支給(1回目:16件、2回目:14件)　・智頭町妊婦さんサポート給付金の支給　27件

R7年度（3月末に記入）

Check(確認)

| 評価項目 | 評価内容 | 100% | 75% | 50% | 25% | 0% |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | 社会情勢から見て、行政で実施すべきか | A | B | C | D | E |
| | 住民ニーズや総合計画に適応しているか | A | B | C | D | E |
| | 事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か | A | B | C | D | E |
| 有効性 | 期待した効果は得られているか | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の目標は達成できているか | A | B | C | D | E |
| | 総合計画の目的達成に貢献しているか | A | B | C | D | E |
| 効率性 | 効率性を考えたとき、実施方法は適切か | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の中で、統廃合や縮小できないか | A | B | C | D | E |
| | 事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か | A | B | C | D | E |

成果・課題

・令和７年度にこども家庭センターを開設したばかりで、まだ周知されていないため、関係機関にチラシ配布や講話等により更なる啓発が必要である。
・子育て支援施策が、まだまだ不十分であり、適切なタイミングで利用の案内ができない。特に、短期入所については、利用希望者が多いが、受け皿が限られており、地域資源の開発が課題となっている。
・不登校等の居場所として、週に3回10時～15時に開催している。新規利用希望者や継続利用もあり、必要性を感じている。

R7年度（3月末に記入）

| 評価 | B |
|---|---|

担当課長評価

| 評価 | B |
|---|---|

| 方針 | 拡大 | 現状維持 | 抑制 | 廃止 |
|---|---|---|---|---|

評価理由：子どもが安心して過ごせる環境をつくるため、継続的な実施が必要。

R7年度（３月末に記入）

Action(改善)

R7実施内容の改善及び見直しの上、R8の方針・計画

・こども家庭センターの周知。母子保健分野と児童福祉分野で連携しながら、更なる相談体制の充実化を図り、アウトリーチも積極的に行う。
・短期入所・トワイライトステイ・子育て世帯等訪問支援事業の受け皿の新規開拓に努め、利用ニーズを充足していく。
・こどもの生活・学習支援事業の利用の充実とともに、人材育成についても積極的に行う。

＜様式1附属＞

# 第7次総合計画進行管理検証シート

| 事業名 | 豊かな子育て支援の推進 | | | 所属 | 教育課 | SDGｓ | 11 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業（細目）名 | 子育て推進事務 | | | | 事業番号 | 1784 | |
| 総合計画 基本理念 | Ⅳ　地域や家族のつながりでつくるまちづくり | | | | | | |
| 総合計画 視点 | 家族 | 事業番号 | 8 | | 連番 | 109 | |

R7年度（4月記入）

| Goal(目標) | 子育て世帯の育児･教育にかかる費用を補助し、子育てがしやすい暮らしをサポートする。 |
|---|---|

Plan(事業概要・計画)

保護者の就労支援が、豊かな子育てと家庭教育に繋がると捉え、多様化する就労形態にきめ細かく対応する。

R7年度（11月末に実績見込を記入）

Do(実行)

| | R7実績額 | | | 7,108,330円 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 活動実績を示す指標 | 単位 | R6 | R7(計画) | R7(実績) | 対前年比(%) |
| ① 対象者に子育て給付金制度の活用を周知 | 人 | 10 | 8 | 6 | 80% |
| ② 智頭農林高校と連携した補助金交付 | 人 | 4 | 5 | 3 | 125% |
| ③ 対象家庭(高校生)に補助制度を周知 | 人 | 98 | 127 | 96 | 130% |

実施内容

補助金制度を対象者に周知し活用を進めることで、制度の趣旨に沿った効果を拡大させる。

R7年度（年度末に記入）

Check(確認)

| 評価項目 | 評価内容 | 100% | 75% | 50% | 25% | 0% |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | 社会情勢から見て、行政で実施すべきか | A | B | C | D | E |
| | 住民ニーズや総合計画に適応しているか | A | B | C | D | E |
| | 事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か | A | B | C | D | E |
| 有効性 | 期待した効果は得られているか | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の目標は達成できているか | A | B | C | D | E |
| | 総合計画の目的達成に貢献しているか | A | B | C | D | E |
| 効率性 | 効率性を考えたとき、実施方法は適切か | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の中で、統廃合や縮小できないか | A | B | C | D | E |
| | 事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か | A | B | C | D | E |

成果・課題

(1)子育て給付金　就労(保育園入所)より在宅育児を選ぶためのインセンティヴとして月額30千円は少額だが勤務先で育児休業手当の支給がない保護者にとって経済的な救済効果は大きい。

(2)高校生通学費補助　居住地によって異なる通学費用が是正され、公平性が保たれている。

R7年度（年度末に記入）

| 評価 | B |
|---|---|

| 方針 | 拡大 | 現状維持 | 抑制 | 廃止 |
|---|---|---|---|---|

担当課長評価

| 評価 | B |
|---|---|

評価理由：　育児・教育経費の負担軽減が、充実した家庭教育に繋がっている。

R7年度（年度末に記入）

Action(改善)

R7実施内容の改善及び見直しの上、R8の方針・計画

・各種申請を電子申請が可能となるよう整備を進める。

・中学３年生保護者に高校生等通学費補助金の制度案内を周知する。

＜様式1附属＞

# 第7次総合計画進行管理検証シート

| 事業名 | 子育て支援センターの利用促進と母子指導の推進 | | | 所属 | 教育課 | SDGｓ | 11 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業（細目）名 | 子育て支援センター | | | | 事業番号 | 1786 | |
| 総合計画 | 基本理念 | 地域や家族のつながりでつくるまちづくり | | | | | |
| | 視点 | 家族 | 事業番号 | 12 | 連番 | 113 | |

R7年度（4月記入）

| Goal(目標) | 親子交流、子育て相談、情報提供、助言、援助を行うことで孤立感や不安感の緩和を図る。 |
|---|---|

Plan(事業概要・計画)

乳幼児保護者の幸福感アップ

・安らぎとワクワク感がある行事を企画し、親子で集まりやすい雰囲気をつくる。

・保育者同士の対話を増やし、繋がりによる安心感・連帯感を高めることが育児不安の緩和に繋がる。

R7年度（11月末に実績見込を記入）

Do(実行)

| | | R7実績見込額 | | | | 6,930,000円 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動実績を示す指標 | | 単位 | R6 | R7(計画) | R7(実績) | 対前年比(%) |
| ① | 利用人数 | 人 | 533 | 500 | 533 | 94% |
| ② | 設定保育・行事・お出かけ支援数 | 件 | 24 | 27 | 34 | 113% |
| ③ | 子育て講座 | 件 | 7 | 7 | 7 | 100% |

実施内容

・遊びの広場　平日9:00～16:00開設　・毎月の行事（誕生会、作って遊ぼう、お出かけ支援）

・イベント（お楽しみ会、クリスマス会、お散歩会）　・子育て講座（ベビー＆ママヨガ講座ほか）

・ワクワクほほえみくらぶ（毎週金曜日にちづ保育園にて開所）

R7年度

Check(確認)

| 評価項目 | 評価内容 | 100% | 75% | 50% | 25% | 0% |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | 社会情勢から見て、行政で実施すべきか | A | B | C | D | E |
| | 住民ニーズや総合計画に適応しているか | A | B | C | D | E |
| | 事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か | A | B | C | D | E |
| 有効性 | 期待した効果は得られているか | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の目標は達成できているか | A | B | C | D | E |
| | 総合計画の目的達成に貢献しているか | A | B | C | D | E |
| 効率性 | 効率性を考えたとき、実施方法は適切か | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の中で、統廃合や縮小できないか | A | B | C | D | E |
| | 事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か | A | B | C | D | E |

成果・課題

・支援センターの場所が遠く不便だという意見を考慮し、R6.7～毎週金曜日にちづ保育園で開所しているが客足が伸びない。一方で入園前に保育園の様子を知れて嬉しいという声もある。他の施設での開所も行い、立地場所により集客率に変化が生じるのか検証していく。

・少子化により利用者が減少傾向かつ同じ顔ぶれとなっている。支援センターの存在を知らない家庭への周知、呼び込みにより活気づけたい。

R7年度

| 評価 | C |
|---|---|

| 方針 | 拡大 | 現状維持 | 抑制 | 廃止 |
|---|---|---|---|---|

担当課長評価

| 評価 | C |
|---|---|

評価理由：開所日を週5日から週3日に変更し実施する。

R7年度

Action(改善)

R7実施内容の改善及び見直しの上、R8の方針・計画

・利用者が安らぐ空間づくりと仲間づくりに繋がる行事の企画を行う。

・施設の維持管理費について費用対効果が低く、少子化により更なる利用者の減少が見込まれることから、R8年度以降ちづ保育園内に連携型支援センターとして開設する。利用者がいない時間帯は、保育補助やR8年度からスタートするこども誰でも通園制度の業務にあたる。

＜様式1附属＞

# 第7次総合計画進行管理検証シート

| 事業名 | ちづＮＥＸＴ | | | 所属 | 企画課 | SDGｓ | 11、17 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業（細目）名 | 百人委員会 | | | | 事業番号 | 1895 | |
| 総合計画 | 基本理念 | 子どもから大人まで学びと成長のまちづくり | | | | | |
| | 視点 | 学び | 事業番号 | 14 | 連番 | 80 | |

R7年度（4月記入）

| Goal(目標) | 中学生が智頭町のことを学習することで郷土愛を育み、その経験を活かし百人委員会の企画提案の立案や実践に繋げる。 |
|---|---|

Plan(事業概要・計画)

・小学6年生、中学生の総合学習で智頭町に関する学習を実・百人委員会総会の開催（3月）
・百人委員会総会の開催（3月）
・授業を通して、百人委員会企画提案会に繋げる。（10月~12月）

R7年度（11月末に実績見込を記入）

Do(実行)

| | | R7実績見込額 | | | | 0千円 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動実績を示す指標 | | 単位 | R6 | R7(計画) | R7(実績) | 対前年比(%) |
| ① | ちづＮＥＸＴ（授業） | 回 | 16 | 15 | 16 | 94% |
| ② | 担当教諭との打ち合わせ | 回 | 15 | 15 | 15 | 100% |
| ③ | | | | | | |

実施内容

6年生・・・ちづＮＥＸＴ授業（4回）、打ち合わせ（2回）　　その他打合せ（2回）
1年生・・・ちづＮＥＸＴ授業（5回）、打ち合わせ（3回）　　学校1回、コミスク1回
2年生・・・ちづＮＥＸＴ授業（4回）、打ち合わせ（5回）
3年生・・・ちづＮＥＸＴ授業（3回）、打ち合わせ（3回）

R7年度（11月末に記入）

Check(確認)

| 評価項目 | 評価内容 | 100% | 75% | 50% | 25% | 0% |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | 社会情勢から見て、行政で実施すべきか | A | B | C | D | E |
| | 住民ニーズや総合計画に適応しているか | A | B | C | D | E |
| | 事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か | A | B | C | D | E |
| 有効性 | 期待した効果は得られているか | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の目標は達成できているか | A | B | C | D | E |
| | 総合計画の目的達成に貢献しているか | A | B | C | D | E |
| 効率性 | 効率性を考えたとき、実施方法は適切か | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の中で、統廃合や縮小できないか | A | B | C | D | E |
| | 事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か | A | B | C | D | E |

成果・課題

・各学年が昨年度学んだことを継承しながら協議・授業を重ね、企画提案（中1、中2）や事業実施（中3）に繋げた。
・小6については学校の思い（歴史をテーマとしたい）を踏まえ、教育委員会と連携しながら協議・授業を重ねた。
・今年度は３名のコミュニティースクールの地域コーディネーターとも連携して事業を行った。

R7年度（11月末に記入）

| 評価 | A |
|---|---|

| 方針 | 拡大 | 現状維持 | 抑制 | 廃止 |
|---|---|---|---|---|

担当課長評価

| 評価 | B |
|---|---|

評価理由：郷土愛を育むプログラムとして定着してきているが、町担当課への依存度が高いのが課題である。

R7年度（11月末に記入）

Action(改善)

R7実施内容の改善及び見直しの上、R8の方針・計画

・例年教員異動等により打合せが遅くなる傾向にあるため、年度当初に来年度序盤の授業日程を打合せする。
・事業規模の再考（規模が大きくなりすぎている）と学校から指摘もあるため、「学生の学び」を主たる目的とした事業であるという原点に立ち返り、協議のうえ実施事業を検討していく。

＜様式1附属＞

# 第7次総合計画進行管理検証シート

| 事業名 | 百人委員会 | | | 所属 | 企画課 | SDGｓ | 11、17 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業（細目）名 | 百人委員会 | | | | 事業番号 | 1895 | |
| 総合計画 | 基本理念 | 子どもから大人まで学びと成長のまちづくり | | | | | |
| | 視点 | 仲間づくり | 事業番号 | 11 | 連番 | 98 | |

R7年度（4月記入）

| Goal(目標) | 町民がまちづくりに参加し、町をよりよくしようという意識を醸成する。 |
|---|---|

Plan(事業概要・計画)

・百人委員会各部会の開催（随時）　　・百人委員会総会の開催（3月）
・百人委員会学生の部（中学生）を計画的にフォロー
・百人委員会企画提案会の開催（12月）

R7年度（11月末に実績見込を記入）

Do(実行)

| | | R7実績見込額 | | | | 6,809,309円 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動実績を示す指標 | | 単位 | R6 | R7(計画) | R7(実績) | 対前年比(%) |
| ① | 今年度企画提案数 | 件 | 15 | 14 | 14 | 93% |
| ② | 百人委員会委員数 | 人 | 94 | 95 | 95 | 101% |
| ③ | 企画実行数 | 件 | 11 | 15 | 13 | 136% |

実施内容

・百人委員会各部会の部会実施　　・百人委員会総会の開催（3月）
・次年度企画提案　一般の部10件、学生の部 高校生2件・中学生2件
・運営委員会の開催4回

R7年度（11月末に記入）

Check(確認)

| 評価項目 | 評価内容 | 100% | 75% | 50% | 25% | 0% |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | 社会情勢から見て、行政で実施すべきか | A | B | C | D | E |
| | 住民ニーズや総合計画に適応しているか | A | B | C | D | E |
| | 事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か | A | B | C | D | E |
| 有効性 | 期待した効果は得られているか | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の目標は達成できているか | A | B | C | D | E |
| | 総合計画の目的達成に貢献しているか | A | B | C | D | E |
| 効率性 | 効率性を考えたとき、実施方法は適切か | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の中で、統廃合や縮小できないか | A | B | C | D | E |
| | 事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か | A | B | C | D | E |

成果・課題

・企画提案会のあり方について要検討（提案事業の推敲の場としての側面）
・町民に向けた活動の周知・理解の促進に向けた活動が不足していた。
・事務局連絡会議が現段階で実施できていない。

R7年度（11月末に記入）

| 評価 | B |
|---|---|

| 方針 | 拡大 | 現状維持 | 抑制 | 廃止 |
|---|---|---|---|---|

担当課長評価

| 評価 | C |
|---|---|

評価理由： 取り組みが形骸化しつつある。運営にも工夫が必要。

R7年度（11月末に記入）

Action(改善)

R7実施内容の改善及び見直しの上、R8の方針・計画

・各部会事務局との連携を高める動きが必要（事務局連携会議の実施等）。
・町民に向けた活動の周知・理解の促進に向けた活動をより強化していく（町民ライターの活用等）
・新規部員入会の促進を行う（例：移住者が窓口に補助金等の相談に来た際、取り次いでもらい勧誘する等）

＜様式1附属＞

# 第7次総合計画進行管理検証シート

| 事業名 | | 学校と家庭の連携による良好な生活習慣の定着 | | | 所属 | 教育課 | SDGｓ | 4・11 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業（細目）名 | | 家庭教育学級事業 | | | | 事業番号 | 1199 | |
| 総合計画 | 基本理念 | Ⅲ　子どもから大人まで学びと成長のまちづくり | | | | | | |
| | 視点 | ①学び | 事業番号 | 9 | | 連番 | 75 | |

R7年度（4月記入）

| Goal(目標) | 保護者と共に育む家庭教育及び豊かな子育ての推進 |
|---|---|

Plan(事業概要・計画)

・多様化する生活と家庭環境に関わらず、保護者の充実した子育てにより親子の良好な関係構築を応援する。

・保護者の不安や困り感を早期に把握できる体制を整え、関係機関と協力して課題解消を図る。

R7年度（11月末に実績見込を記入）

Do(実行)

| | | R7実績額 | | | | 527,715円 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動実績を示す指標 | | 単位 | R6 | R7(計画) | R7(実績) | 対前年比(%) |
| ① | 小学校１年生の家庭訪問を実施 | 回 | 1 | 1 | 1 | 100% |
| ② | 子育て講座の開催 | 回 | 6 | 1 | 0 | 17% |
| ③ | | | | | | |

実施内容

・福祉課と共に小学１年生の家庭訪問を実施

R7年度（11月末に記入）

Check(確認)

| 評価項目 | 評価内容 | 100% | 75% | 50% | 25% | 0% |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | 社会情勢から見て、行政で実施すべきか | A | B | C | D | E |
| | 住民ニーズや総合計画に適応しているか | A | B | C | D | E |
| | 事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か | A | B | C | D | E |
| 有効性 | 期待した効果は得られているか | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の目標は達成できているか | A | B | C | D | E |
| | 総合計画の目的達成に貢献しているか | A | B | C | D | E |
| 効率性 | 効率性を考えたとき、実施方法は適切か | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の中で、統廃合や縮小できないか | A | B | C | D | E |
| | 事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か | A | B | C | D | E |

成果・課題

・子育て力の向上や保護者同士が繋がり合う機会の創出が必要である。

R7年度（11月末に記入）

| 評価 | B |
|---|---|

| 方針 | 拡大 | 現状維持 | 抑制 | 廃止 |
|---|---|---|---|---|

担当課長評価

| 評価 | B |
|---|---|

評価理由：保護者の子育て力の向上に向けた取り組みがなされている。

R7年度（11月末に記入）

Action(改善)

R7実施内容の改善及び見直しの上、R8の方針・計画

・親子が一緒に過ごせる居場所づくりとして、子育て支援センターと連携し、年４回の育カフェを開催する。

＜様式1附属＞

# 第7次総合計画進行管理検証シート

| 事業名 | 子どもの貧困対策推進事業 | | | 所属 | 福祉課 | SDGｓ | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業（細目）名 | 子どもの貧困対策推進事業 | | | | 事業番号 | 2026 | |
| 総合計画 | 基本理念 | 地域や家族のつながりでつくるまちづくり | | | | | |
| | 視点 | 家族 | 事業番号 | 11 | 連番 | Ⅳ-5 | |

R7年度（4月記入）

| Goal(目標) | ひとり親・貧困家庭の支援及び本町の貧困家庭の状況について取りまとめる。 |
|---|---|

Plan(事業概要・計画)

＜子どもの学習支援事業＞
・小学校１年～３年（毎週火曜日）
・中学校3年(毎週金曜日)

＜子どもの居場所づくり推進事業＞
・子ども食堂「えん」(旧諏訪保育園)開催(毎週水曜日)

R7年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)

| | | R7実績額 | | 3,641,752円 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動実績を示す指標 | | 単位 | R6 | R7(計画) | R7(実績) | 対前年比(%) |
| ① | 子どもの学習支援利用者数 | 人 | 214 | 250 | 316 | 148% |
| ② | 子ども食堂利用者数 | 食 | 3515 | 2750 | 3835 | 109% |
| ③ | | | | | | #DIV/0! |

実施内容

＜子どもの学習支援事業＞
・小学校１年～３年（毎週火曜日）
・中学校3年(毎週金曜日)

＜子どもの居場所づくり推進事業＞
・子ども食堂「えん」(旧諏訪保育園)開催

R7年度（３月末に記入）

Check(確認)

| 評価項目 | 評価内容 | 100% | 75% | 50% | 25% | 0% |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | 社会情勢から見て、行政で実施すべきか | A | B | C | D | E |
| | 住民ニーズや総合計画に適応しているか | A | B | C | D | E |
| | 事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か | A | B | C | D | E |
| 有効性 | 期待した効果は得られているか | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の目標は達成できているか | A | B | C | D | E |
| | 総合計画の目的達成に貢献しているか | A | B | C | D | E |
| 効率性 | 効率性を考えたとき、実施方法は適切か | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の中で、統廃合や縮小できないか | A | B | C | D | E |
| | 事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か | A | B | C | D | E |

成果・課題

・学習支援教室委託先と定期的に面談を実施し、利用者の状況や教室の課題等を把握。
・子ども食堂は新型コロナ感染症5類以降後もテイクアウトを継続し、テイクアウトでの利用者が増えている。

R7年度（３月末に記入）

| 評価 | B |
|---|---|

| 方針 | 拡大 | 現状維持 | 抑制 | 廃止 |
|---|---|---|---|---|

担当課長評価

| 評価 | B |
|---|---|

評価理由： 貧困家庭等の支援のため、継続的な実施が必要。

R7年度（３月末に記入）

Action(改善)

R7実施内容の改善及び見直しの上、R8の方針・計画

・委託先との定期的なヒアリングを継続し、事業内容の改善、利便性の向上に努める。
・学習支援事業については、中学生の利用が少ないことから小学生と合同で実施する等、実施方法を検討する。

＜様式1附属＞

# 第7次総合計画進行管理検証シート

| 事業名 | 食育の推進 | | | 所属 | 福祉課 | SDG s | 3,11 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業（細目）名 | 健康教育事業 | | | | 事業番号 | 1109 | |
| 総合計画 基本理念 | 安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり | | | | | | |
| 総合計画 視点 | 健康教育事業 | 事業番号 | 8 | | 連番 | 41 | |

R7年度（4月記入）

| Goal(目標) | 食育の推進 |
|---|---|
| Plan(事業概要・計画) | |

・第二次智頭町食育推進計画に基づいた事業実施。
・学校給食を生きた教材とし、未来を担う子どもたちに正しい食教育を行う。
・栄養教諭等の専門職のいない保育園の園児を対象とした健康教育の開催。

R7年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)

| | | R7実績額 | | | | 159,778円 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動実績を示す指標 | | 単位 | R6 | R7(計画) | R7(実績) | 対前年比(%) |
| ① | 食育に関する情報発信 | 回 | 2 | 1 | 1 | 50% |
| ② | 学校給食の提供 | 人（実） | 376 | 360 | 360 | 96% |
| ③ | 食育推進事業の実施 | 回 | 0 | 11 | 10 | #DIV/0! |

実施内容

・6月の食育月間に合わせ、ちえの森ちづ図書館で関係図書の掲示やリーフレットを配布。ほのぼのそよかぜ通りでも掲示等を実施。
・地産地消、郷土料理、行事食などの提供を通じて、給食を生きた教材として子どもたちに食教育を実施。
・食生活改善推進員協議会に委託して、地域住民に講習会を実施。
・保育園の年中児、年長児を対象に、健康な身体と歯をつくる食育推進事業を実施。

R7年度（3月末に記入）

Check(確認)

| 評価項目 | 評価内容 | 100% | 75% | 50% | 25% | 0% |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | 社会情勢から見て、行政で実施すべきか | A | B | C | D | E |
| | 住民ニーズや総合計画に適応しているか | A | B | C | D | E |
| | 事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か | A | B | C | D | E |
| 有効性 | 期待した効果は得られているか | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の目標は達成できているか | A | B | C | D | E |
| | 総合計画の目的達成に貢献しているか | A | B | C | D | E |
| 効率性 | 効率性を考えたとき、実施方法は適切か | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の中で、統廃合や縮小できないか | A | B | C | D | E |
| | 事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か | A | B | C | D | E |

成果・課題

・広報や告知端末を活用し、町民に広く食育に関する周知が行えた。
・教育現場で食育を実施することで、子どもだけでなく保護者への啓発にもつながっている。
・職員体制により、事業の対象者・内容とも限られたものになっている部分がある。

R7年度（3月末に記入）

| 評価 | C |
|---|---|

| 方針 | 拡大 | 現状維持 | 抑制 | 廃止 |
|---|---|---|---|---|

担当課長評価

| 評価 | C |
|---|---|

評価理由： 職員体制により、例年どおりの事業実施が困難であった。

R7年度（3月末に記入）

Action(改善)

R7実施内容の改善及び見直しの上、R8の方針・計画

・保育園、学校教育現場や関係機関等と連携し、事業内容を充実させる。
・令和8年度は食育推進計画の評価年度である。今までの事業を振り返り、食育事業の充実のため、令和9年度以降の事業内容について関係機関と検討する。

＜様式1附属＞

# 第7次総合計画進行管理検証シート

| 事業名 | 特定健診・がん検診・各種健康教室・健康相談・家庭訪問の充実 | | | 所属 | 福祉課 | SDGｓ | 3,11 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業（細目）名 | 健康教育事業 | | | | 事業番号 | 1109 | |
| 総合計画 基本理念 | 安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり | | | | | | |
| 総合計画 視点 | 健康 | 事業番号 | 9 | | 連番 | 42 | |

R7年度（4月記入）

| Goal(目標) | 生活習慣病の発病予防、重症化予防 |
|---|---|

Plan(事業概要・計画)

・糖尿病・高血圧予防教室ＯＢ会「ブルーリボンの会」の実施（2回）
・ウォーキング教室の開催（1回）、各地区健康ウォークの開催（4回）
・カムカム健康プログラム（体験版）の開催（1回）

R7年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)

| | | R7実績額 | | | | 389,615円 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動実績を示す指標 | | 単位 | R6 | R7(計画) | R7(実績) | 対前年比(%) |
| ① | 「ブルーリボンの会」の開催 | 延人 | 71 | 50 | 23 | 32% |
| ② | ウォーキング教室の開催 | 延人 | 178 | 180 | 145 | 81% |
| ③ | カムカム健康プログラム（体験版）の開催 | 延人 | 0 | 50 | 41 | #DIV/0! |

実施内容

・ブルーリボンの会は疾患についての振り返りと運動の2テーマで年2回実施した。
・ウォーキング教室は中央での教室の開催と、各地区での健康ウォークを開催した。
・オーラルフレイル予防の一環として、智頭病院と共催でカムカム健康プログラムの体験版を開催した。

R7年度（3月末に記入）

Check(確認)

| 評価項目 | 評価内容 | 100% | 75% | 50% | 25% | 0% |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | 社会情勢から見て、行政で実施すべきか | A | B | C | D | E |
| | 住民ニーズや総合計画に適応しているか | A | B | C | D | E |
| | 事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か | A | B | C | D | E |
| 有効性 | 期待した効果は得られているか | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の目標は達成できているか | A | B | C | D | E |
| | 総合計画の目的達成に貢献しているか | A | B | C | D | E |
| 効率性 | 効率性を考えたとき、実施方法は適切か | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の中で、統廃合や縮小できないか | A | B | C | D | E |
| | 事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か | A | B | C | D | E |

成果・課題

・ブルーリボンの会を年2回実施し、糖尿病等の知識や健康についての関心の維持・向上につながった。
・町の課題でもあるオーラルフレイルについて、智頭病院と共催で新規の取組を行うことができた。
・マンパワー不足により、教室の開催を十分に実施することができなかった。

R7年度（3月末に記入）

| 評価 | B |
|---|---|

| 方針 | 拡大 | 現状維持 | 抑制 | 廃止 |
|---|---|---|---|---|

担当課長評価

| 評価 | B |
|---|---|

評価理由： 町の現状を鑑み、優先度の高い兼行課題に関連した健康教育を実施することができた。

R7年度（3月末に記入）

Action(改善)

R7実施内容の改善及び見直しの上、R8の方針・計画

・マンパワー不足によりR7年度は一部の事業を中止・縮小したが、R8年度からは再開するとともに、新規事業も行う。ハイリスク者に対する教室と、広く町民が参加できる教室の双方を実施し、住民の健康度の底上げを図る。
・食生活改善推進員との連携を継続する。

＜様式1附属＞

# 第7次総合計画進行管理検証シート

| 事業名 | 特定健診・がん検診・各種健康教室・健康相談・家庭訪問の充実 | | | 所属 | 福祉課 | SDGｓ | 3,11 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業（細目）名 | 健康診査事業／後期高齢者等健康診査事業／特定健康診査等事業 | | | | 事業番号 | 1110/1870/1976 | |
| 総合計画 | 基本理念 | 安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり | | | | | |
| | 視点 | 健康 | 事業番号 | 9 | 連番 | 42 | |

R7年度（4月記入）

| Goal(目標) | 主に生活習慣病の発病予防、早期発見、重症化予防を目指す。 |
|---|---|

Plan(事業概要・計画)

・40歳以上の国保加入者に対し特定健診、一定年齢以上の町民に対しがん検診を実施。
・後期高齢者医療制度加入者に対し後期高齢者健診を実施。
・40歳～69歳の町民に対し智頭町ドックを実施。　・40歳～59歳の町民に対し脳ドックを実施。

R7年度（3月末に記入）

Do(実行)

| | | R7実績額 | | | | 38,465,137円 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動実績を示す指標 | | 単位 | R6 | R7(計画) | R7(実績) | 対前年比(%) |
| ① | 肺がん検診受診率 | % | 36.7 | 37.0 | 38.0 | 104% |
| ② | 胃がん検診受診率 | % | 30.0 | 30.5 | 31.5 | 105% |
| ③ | 肝炎ウイルス検査受診者数 | 人 | 99 | 100 | 56 | 57% |

実施内容

・受ける機会を持ちやすいように、医療機関での個別健診と集団でのセット健診（特定・後期高齢者健診とがん検診とのセット健診）を実施。　・未受診者勧奨通知を発送。
・経済的状況に関わらず健診を受けることができるよう、自己負担金は無料（智頭町ドックと脳ドックは自己負担金あり）。　・要精密検査者等には紹介状を発行し、個別指導。

R7年度（3月末に記入）

Check(確認)

| 評価項目 | 評価内容 | 100% | 75% | 50% | 25% | 0% |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | 社会情勢から見て、行政で実施すべきか | A | B | C | D | E |
| | 住民ニーズや総合計画に適応しているか | A | B | C | D | E |
| | 事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か | A | B | C | D | E |
| 有効性 | 期待した効果は得られているか | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の目標は達成できているか | A | B | C | D | E |
| | 総合計画の目的達成に貢献しているか | A | B | C | D | E |
| 効率性 | 効率性を考えたとき、実施方法は適切か | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の中で、統廃合や縮小できないか | A | B | C | D | E |
| | 事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か | A | B | C | D | E |

成果・課題

・受診機会を持ちやすいよう、集団健診ではセット健診を年6回実施。そのうち、すべての健診・検診の受診ができる回を5回設定した。　・R7年度より、一部年代の女性に骨密度検査を開始。
・受診率は、健診・検診の種類により異なるが、微増～横ばい傾向。
・特定・後期高齢者健診は未受診者全員（施設入所等は除く）に、がん検診は特定の年代の未受診者に絞って、受診勧奨通知を発送。

R7年度（3月末に記入）

| 評価 | B |
|---|---|

| 方針 | 拡大 | 現状維持 | 抑制 | 廃止 |
|---|---|---|---|---|

担当課長評価

| 評価 | B |
|---|---|

評価理由：受診率向上のための取組や健診後のフォローなど丁寧に実施できている。

R7年度（3月末に記入）

Action(改善)

R7実施内容の改善及び見直しの上、R8の方針・計画

・進行した状態で生活習慣病が発見されないよう、早期発見の手段として健診受診の必要性について啓発を続ける。
・健診受診者が早期治療につながるよう、必要な指導や助言を行う等、丁寧な対応を継続する。
・未受診者勧奨、精密検査未受診者への勧奨を継続する。

# 第7次総合計画進行管理検証シート

| 事業名 | 特定健診・がん検診・各種健康教室・健康相談・家庭訪問の充実 | | | 所属 | 福祉課 | SDGｓ | 3,11 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業（細目）名 | 訪問指導事業 | | | | 事業番号 | 1114 | |
| 総合計画 | 基本理念 | 安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり | | | | | |
| | 視点 | 健康 | 事業番号 | 9 | 連番 | 42 | |

R7年度（4月記入）

| Goal(目標) | 町民の健康づくりを支援する。 |
|---|---|

Plan(事業概要・計画)

・健診事後フォローのための訪問（随時）
・特定保健指導利用勧奨のための訪問（随時）
・がん検診の精密検査受診勧奨のための訪問（随時）

R7年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)

| | | R7実績額 | | | | 359,053円 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動実績を示す指標 | | 単位 | R6 | R7(計画) | R7(実績) | 対前年比(%) |
| ① | 特定保健指導勧奨、健診事後フォローのため訪問 | 件（実） | 86 | 90 | 86 | 100% |
| ② | がん検診の精密検査受診勧奨のための訪問 | 件（実） | 67 | 70 | 84 | 125% |
| ③ | | 件 | | | | |

実施内容

・特定健診等の結果により、訪問して個々にあった助言や指導を行った（随時）。
・特定保健指導が必要と診断された人に対し、訪問して利用勧奨を行った（随時）。
・各がん検診の結果、要精密検査となった人に対し、訪問して受診勧奨を行った（随時）。

R7年度（3月末に記入）

Check(確認)

| 評価項目 | 評価内容 | 100% | 75% | 50% | 25% | 0% |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | 社会情勢から見て、行政で実施すべきか | A | B | C | D | E |
| | 住民ニーズや総合計画に適応しているか | A | B | C | D | E |
| | 事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か | A | B | C | D | E |
| 有効性 | 期待した効果は得られているか | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の目標は達成できているか | A | B | C | D | E |
| | 総合計画の目的達成に貢献しているか | A | B | C | D | E |
| 効率性 | 効率性を考えたとき、実施方法は適切か | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の中で、統廃合や縮小できないか | A | B | C | D | E |
| | 事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か | A | B | C | D | E |

成果・課題

・訪問して指導・説明することで、医療機関受診や特定保健指導の必要性等に気づくことができ、積極的に自身の健康管理ができる一助となった。

R7年度（3月末に記入）

| 評価 | B |
|---|---|

| 方針 | 拡大 | 現状維持 | 抑制 | 廃止 |
|---|---|---|---|---|

担当課長評価

| 評価 | B |
|---|---|

評価理由： 訪問で個別的な指導を行うことにより、住民の健康増進に寄与できた。

R7年度（3月末に記入）

Action(改善)

R7実施内容の改善及び見直しの上、R8の方針・計画

・訪問し丁寧に説明や指導をすることで、住民の現状理解が深まり、必要な行動変容に結びついた。
・訪問により、職員が住民のおかれている環境や状況を理解することにもつながった。
・訪問しても会えないケースは、電話や手紙など他の方法も組み合わせてフォローをする。

<様式1附属>

# 第7次総合計画進行管理検証シート

| 事業名 | 町民の健康づくりを目指した健康ちづ２１の推進 | 所属 | 福祉課 | SDGｓ | 3,11 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業（細目）名 | 健康教育事業 | | 事業番号 | 1109 | |
| 総合計画 基本理念 | 安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり | | | | |
| 総合計画 視点 | 健康 | 事業番号 | 12 | 連番 | 45 |

R7年度（4月記入）

| Goal(目標) | 正しい知識を普及啓発し、生活習慣病等の発病予防、重症化予防を目指す。 |
|---|---|

Plan(事業概要・計画)

・老人クラブやミニデイなどでの講話（随時）　　・町保健衛生委員会の開催

・中学校で思春期教室の開催

R7年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)

| 活動実績を示す指標 | | 単位 | R6 | R7(計画) | R7(実績) | 対前年比(%) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | R7実績額 | | | | | 25,925円 |
| ① | 老人クラブ等での健康教育 | 延人 | 97 | 100 | 0 | 0% |
| ② | 保健衛生委員会の開催 | 回 | 2 | 2 | 2 | 100% |
| ③ | 中学校での健康教室の開催 | 延人 | 105 | 100 | 76 | 72% |

実施内容

・保健衛生委員会の開催

・中学校で思春期教室、メディアコントロール教室の開催

R7年度（3月末に記入）

Check(確認)

| 評価項目 | 評価内容 | 100% | 75% | 50% | 25% | 0% |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | 社会情勢から見て、行政で実施すべきか | A | B | C | D | E |
| | 住民ニーズや総合計画に適応しているか | A | B | C | D | E |
| | 事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か | A | B | C | D | E |
| 有効性 | 期待した効果は得られているか | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の目標は達成できているか | A | B | C | D | E |
| | 総合計画の目的達成に貢献しているか | A | B | C | D | E |
| 効率性 | 効率性を考えたとき、実施方法は適切か | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の中で、統廃合や縮小できないか | A | B | C | D | E |
| | 事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か | A | B | C | D | E |

成果・課題

・保健衛生委員会を2回開催。

・中学1年生を対象に生活習慣病予防の健康教育を中学2年生を対象にメディアコントロールについて健康教育を各1回ずつ実施。

・老人クラブや各地区での健康教育は機会がなく未実施。

R7年度（3月末に記入）

| 評価 | B |
|---|---|

| 方針 | 拡大 | 現状維持 | 抑制 | 廃止 |
|---|---|---|---|---|

担当課長評価

| 評価 | B |
|---|---|

評価理由：関係各者と連携しながら事業展開できている。

R7年度（3月末に記入）

Action(改善)

R7実施内容の改善及び見直しの上、R8の方針・計画

・中学校での健康教室は養護教諭等と連携しながら実施。テーマや内容は、必要に応じて見直しながら実施する。

・保健衛生委員向けの研修は、町の健康課題等も踏まえ内容を検討する。

＜様式1附属＞

# 第7次総合計画進行管理検証シート

| 事業名 | 健康ポイント事業 | | | 所属 | 福祉課 | SDGｓ | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業（細目）名 | 健康ポイント事業 | | | | 事業番号 | 2023 | |
| 総合計画 | 基本理念 | 安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり | | | | | |
| | 視点 | 健康 | 事業番号 | | 連番 | Ⅱ-2 | |

R7年度（4月記入）

| Goal(目標) | 健康ポイント事業を通して健康への意識を高め、元気で長生きできるまちづくり |
|---|---|

Plan(事業概要・計画)

・ウォーキンググループへの登録通知（4月）

・広報で住民に周知（4月）

R7年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)

| | | R7実績額 | | | 194,000円 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動実績を示す指標 | | 単位 | R6 | R7(計画) | R7(実績) | 対前年比(%) |
| ① | ポイント引き換え者数 | 人 | 214 | 250 | 194 | 91% |
| ② | | | | | | #DIV/0! |
| ③ | | | | | | #DIV/0! |

実施内容

・ウォーキンググループへの登録通知（4月）　・広報で住民に周知(4月)

・ウォーキング実施者、健康ポイント対象事業参加者にポイント付与

R7年度（3月末に記入）

Check(確認)

| 評価項目 | 評価内容 | 100% | 75% | 50% | 25% | 0% |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | 社会情勢から見て、行政で実施すべきか | A | B | C | D | E |
| | 住民ニーズや総合計画に適応しているか | A | B | C | D | E |
| | 事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か | A | B | C | D | E |
| 有効性 | 期待した効果は得られているか | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の目標は達成できているか | A | B | C | D | E |
| | 総合計画の目的達成に貢献しているか | A | B | C | D | E |
| 効率性 | 効率性を考えたとき、実施方法は適切か | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の中で、統廃合や縮小できないか | A | B | C | D | E |
| | 事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か | A | B | C | D | E |

成果・課題

事業後のアンケートでは、健康ポイントを通して健康への意識を持たれた方もおり、一定の成果を感じる。

より多くの方に参加していただくためさらなる広報活動を行いたい。

R7年度（11月末に記入）

| 評価 | B |
|---|---|

| 方針 | 拡大 | 現状維持 | 抑制 | 廃止 |
|---|---|---|---|---|

担当課長評価

| 評価 | B |
|---|---|

評価理由： 健康意識の向上のため、継続的な事業の実施が必要。

R7年度（11月末に記入）

Action(改善)

R7実施内容の改善及び見直しの上、R8の方針・計画

ウォーキンググループにすでに登録している人を別のグループで登録しないよう確認する。

より多くの方に利用していただくため、ポイント付与制度の周知を図る。

<様式1附属>

# 第7次総合計画進行管理検証シート

| 事業名 | 介護予防事業の推進 | | | 所属 | 福祉課 | SDGｓ | 3、11 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業（細目）名 | 重層的支援体制整備事業(介護･地域介護予防活動事業) | | | | 事業番号 | 2105 | |
| 総合計画 | 基本理念 | 安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり | | | | | |
| | 視点 | 健康 | 事業番号 | 10 | 連番 | 43 | |

R7年度（4月記入）

| Goal(目標) | 地域における介護予防活動の推進 |
|---|---|

Plan(事業概要・計画)

・介護予防活動の地域展開を支援。
・フレイル予防のための教室開催支援。
・森のミニデイ、集落の実施（委託）。

R7年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)

| | | R7実績額 | | | 9,840,185円 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動実績を示す指標 | | 単位 | R6 | R7(計画) | R7(実績) | 対前年比(%) |
| ① | いきいき脳元気教室参加延人数 | 件 | 1,884 | 1,838 | 1,985 | 105% |
| ② | 森のミニデイ実施箇所 | 箇所 | 6 | 6 | 6 | 100% |
| ③ | 集落ミニデイ実施箇所 | 箇所 | 35 | 35 | 35 | 100% |

実施内容

・住民主体の通いの場（森のミニデイ・集落ミニデイ）の運営を地区振興協議会や社会福祉協議会に委託。
・いきいき脳元気教室の開催。

R7年度（11月末に記入）

Check(確認)

| 評価項目 | 評価内容 | 100% | 75% | 50% | 25% | 0% |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | 社会情勢から見て、行政で実施すべきか | A | B | C | D | E |
| | 住民ニーズや総合計画に適応しているか | A | B | C | D | E |
| | 事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か | A | B | C | D | E |
| 有効性 | 期待した効果は得られているか | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の目標は達成できているか | A | B | C | D | E |
| | 総合計画の目的達成に貢献しているか | A | B | C | D | E |
| 効率性 | 効率性を考えたとき、実施方法は適切か | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の中で、統廃合や縮小できないか | A | B | C | D | E |
| | 事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か | A | B | C | D | E |

成果・課題

・毎週通え、みんなで顔を見合わせ話ができる場があることを喜んでいる方が多く存在している。
・脳元気教室の宿題を毎日することが日課となり定着化し、住民のフレイル予防に大いに貢献していると考える。
・フレイル予防に資するボランティアの育成及び活動が必要。

R7年度（3月末に実績を記入）

| 評価 | B |
|---|---|

| 方針 | 拡大 | 現状維持 | 抑制 | 廃止 |
|---|---|---|---|---|

担当課長評価

| 評価 | B |
|---|---|

評価理由： フレイル予防活動の地域展開を継続して行っていく必要がある。

R7年度（3月末に実績を記入）

Action(改善)

R7実施内容の改善及び見直しの上、R8の方針・計画

・いきいき脳元気教室は、週に2クラス設け、それぞれ20数名ずつ参加している。令和7年度脳元気教室参加者の卒業生も数名参加している。今年度の脳元気教室の参加者も終了後はいきいき脳元気教室へつなぐ予定。
・より智頭町らしいフレイル予防活動の地域展開を進めるため、関係機関・地域住民とともに検討を行う。

＜様式1附属＞

# 第7次総合計画進行管理検証シート

| 事業名 | 介護予防事業の推進 | | | 所属 | 福祉課 | SDGｓ | 3、11 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業（細目）名 | 介護予防普及啓発事業 | | | | 事業番号 | 2038 | |
| 総合計画 | 基本理念 | 安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり | | | | | |
| | 視点 | 健康 | 事業番号 | 10 | 連番 | 43 | |

R7年度（4月記入）

| Goal(目標) | 介護予防の推進 |
|---|---|

Plan(事業概要・計画)

・介護予防の一環として、認知症予防のため脳の健康教室を実施。（1クール3ヶ月間）
・３ヶ月間の介護予防体操教室を実施。

R7年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)

| | | R7実績額 | | | | 1,046,507円 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動実績を示す指標 | | 単位 | R6 | R7(計画) | R7(実績) | 対前年比(%) |
| ① | 脳の健康教室参加実人数 | 人 | 12 | 15 | 11 | 92% |
| ② | フレイル予防教室参加者実人数 | 人 | 20 | 20 | 16 | 80% |
| ③ | | | | | | #DIV/0! |

実施内容

・くもん式脳の健康教室を9/2～11/25までの1クール（3ヶ月間）実施。
・介護予防教室(1クール4ヶ月間）をJa-んぐるに委託し実施。65歳～75歳未満の人へ個別通知をし、4ヶ月間（全12回）のプログラムに励むことにより、運動機能の改善・向上に努める。更に運動の必要性に加えて栄養についての講演を実施し、フレイル予防を推進する。

R7年度（3月末に記入）

Check(確認)

| 評価項目 | 評価内容 | 100% | 75% | 50% | 25% | 0% |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | 社会情勢から見て、行政で実施すべきか | A | B | C | D | E |
| | 住民ニーズや総合計画に適応しているか | A | B | C | D | E |
| | 事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か | A | B | C | D | E |
| 有効性 | 期待した効果は得られているか | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の目標は達成できているか | A | B | C | D | E |
| | 総合計画の目的達成に貢献しているか | A | B | C | D | E |
| 効率性 | 効率性を考えたとき、実施方法は適切か | A | B | C | D | E |
| | 事務事業の中で、統廃合や縮小できないか | A | B | C | D | E |
| | 事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か | A | B | C | D | E |

成果・課題

・脳元気教室は、開始時は定員が集まったが、内容や会の雰囲気が合わず脱落者があった。脱落者がでないような活動内容について検討していく必要がある。
・フレイル予防教室は、体調不良等で毎回欠席する人が何人かいる。栄養口腔の講話が好評であった。各地区の活動につなげるよう支援したが、100%つながったとは言えない。

R7年度（3月末に記入）

| 評価 | B |
|---|---|

| 方針 | 拡大 | 現状維持 | 抑制 | 廃止 |
|---|---|---|---|---|

担当課長評価

| 評価 | B |
|---|---|

評価理由：介護予防推進のため、継続的な実施が必要。

R7年度（3月末に記入）

Action(改善)

R7実施内容の改善及び見直しの上、R8の方針・計画

・脳元気教室については、1クールを4ヶ月から3ヶ月に短縮し実施。
・フレイル予防教室については、来年度も栄養口腔の講話は継続し、個別対応についても検討する。